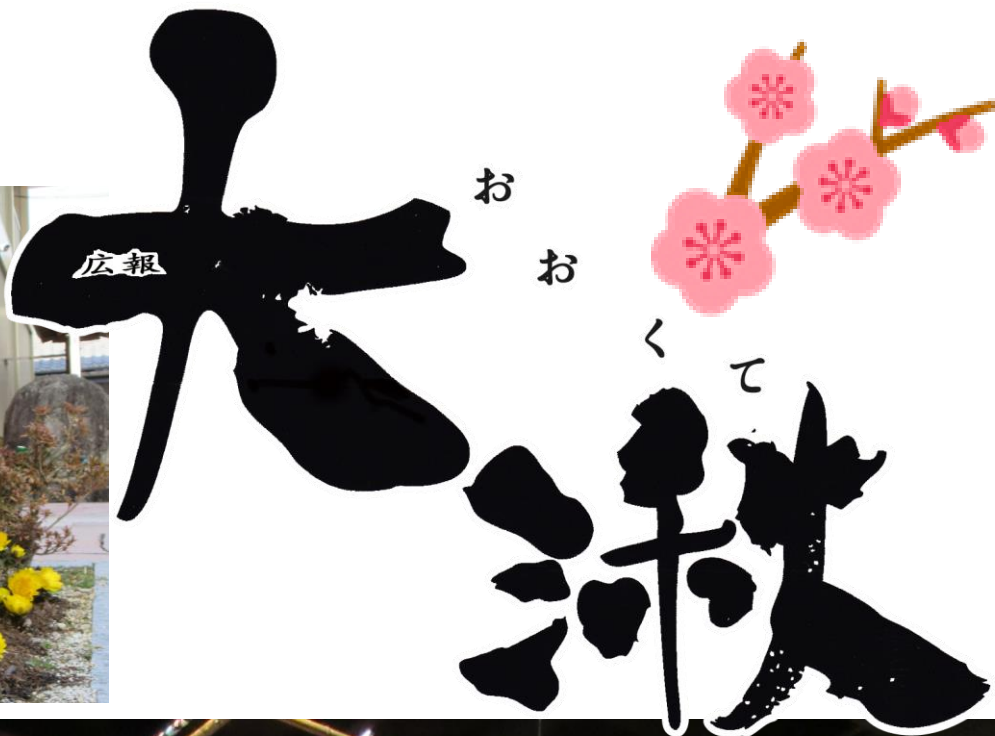


令和2年3月
第404号



大湫宿に春(福寿草)が…!



おもな内容	
・PTA 活動	…P2
・子ども会育成会	…P3
・命を守る防災講座	…P4
・公民館,丸森運営委員会	…P5~P6
・「クテの市」	…P6~P7



『ひな祭りフェア』開催中

4月3日(金)まで「丸森」にて

令和元年度PTA活動を終えて

渡辺成美

今年度は小学生6名、中学生8名
でした。

平成31年3月に釜戸中学校が閉
校し、4月に瑞浪北中学校が開校し
ました。

昨年の今頃を思い返してみると、親
子共々新しい中学校に期待と不安を
抱いていました。新生活がスタートす
ると、子ども達は素直に環境になじも
うとする姿があり、それが成長とも見
て取ることができました。そこには先
生方の様々な配慮があり大変感謝し
ています。

小学生も仲良く元気に学校生活を
送っています。地域の方が先生として
来校して下さる授業を楽しみにして
います。

瑞浪北中学校発足後、ボランティア

活動も継承、

発展して居住

区外からの参

加もあり、夏

祭りなどに活

躍しました。

行事でお見

かけの際は、大

湫の皆様からお声かけ頂き、さらに交



文化祭で活躍した北中学生



夏祭り会場にて

流を深めること
ができたらと思
います。

今後、PTA
活動へのご理解
とご協力をよろ
しくお願いいた
します。

旧大湫小学校の 校舎の写真を持ってみませんか

跡地に記念碑を建立する計画が進んで
います。この記念碑に校舎の写真を陶板
にして添付します。写真がありましたら、
お貸しく下さい。

期 限：3月31日（火）まで

提出先：大湫コミュニティーセンター

☎63-2360

大湫小学校碑建立委員会



昭和32年頃の旧校舎

令和元年度

『大湫子ども会』活動報告

会長 棚橋理恵子

今年度の『大湫子ども会』は子供が楽しめる「子ども会」を目指し活動をしてきました。子供の意見を聞き、イベントを企画しました。「みんなで地球村に泊まりたい」という意見から8月に1泊で多治見市の地球村へ行きました。ログハウスを貸切り、木工体



験をしたり、大浴場にみんなが入ったり、夜はカードゲームをしたりと大いに騒ぎました。また、「ハロウィーン

のイ

ベントをやってみたい」との意見から、大湫町内の高齢者の方を回るイベントを企画しました。子供たちはそれぞれ悪魔や魔女などに仮装して各家を周ってお菓子をもらい、色紙を使った手作りのお礼を渡しました。触れ合う機会が少ないご高齢の方と話をすることができました。

クリスマスイベントでは名古屋駅のホテルブツフェと科学館へ行きました。町内の子供たちはみんな仲良しであることを実感しました。子ども会の活動で子供たちが大湫の町を好きになってもらい、将来子育てを大湫でしたいと少しでも考えてもらえるとうれしいです。



三月の俳句

可知すま子

ままごとの匙の桃色春近し

盛りゆるる炎の中へ札納め

山口雪子

作業場の時計の遅れ寒戻る

獣医師の言の葉柔ら春立ちぬ

天野辰代

卒寿迎え小さき我が家に実万両

足踏みのオルガン弾かぬ久女の忌

『大湫町ゴルフ大会』

場所…中仙道ゴルフ倶楽部

日時…2年3月17日(火)

午前9時スタート

命を守る防災講座

災害に備え、「防災カード」作成

「災害は忘れたころにやってくる」。こんな言い伝えは、今は昔。災害は、いつでもどこでも起き、「忘れない前にやってくる」時代。頻発する災害は、地球温暖化と密接な関係があるともいわれる。例えば台風。日本の近海の海水温が高く、そこからエネルギーが台風に補給され、衰えず、強いまま日本に上陸。大型台風は大雨と豪雨をもたらし、体験したことのない大雨や暴風となって被害を起こす。



こうした事態を受け、避難の情報が明確化された。今回、「災害が頻発する時代、減災と命を守るにはどうしたらよいか、

防災情報はどう変わったか、命を守る学び」として、公民館講座が1月30日（木）に開催された。瑞浪市生活安全課や大湫町防災士（木村伸哉氏）・瑞浪防災会（会長、伊藤道廣氏）の皆さまの協力があり、さらには区長会や民生委員・福祉関係者のご助力で、平日の午後1時からの参加しにくい時間帯にもかかわらず町内から31名の皆さんが参加された。

「安全な場所はどこ」「避難時には何を持って逃げたらよいのでしょうか」「避難すると決めてから行動に移すまでどのくらいの時間がかかると思いますか」など、具体的に考え、記入していく。ひとりひとりが考え決めていく避難となる。

「ここは以前山崩れがあった場所だ」「この川の護岸が崩れたことがある」「大湫中学の山が崩れたことがある」各テーブルで話題が飛び交う。生活安全課が用意された映像の「郡上市和良川」の水害の様子に、参加者は息をのんだ。「まさか・・・」ということが起きる。まさかを改めて感じる映像だった。



時間当たり100ミリをも超える豪雨は、人の想像を超える。皆さん「備え有れば憂いなし」を実感された講座だったようだ。

新たな「公民館」と「丸森」の スタートに期待する

「大湫町コミュニティ推進協議会」は、2月8日（土）、2019（令和元）年度の「第2回公民館・丸森運営委員会」を開催し事業のまとめをおこない、次年度に備えた。今回は本年度2回目の運営委員会。この委員会では、公民館長と丸森施設長から事業報告と2020年度の事業計画が提案された。

おしゃべりサロン「こぶし」や「ひよも」、「山びこどん」、「寿大学」、「集まろう会」の各代表からも活動報告があった。

公民館が開催したのは、16の講座（協賛を含む）。残された講座は「キノコ菌打ち体験」だが、実施済みの講座はいずれも盛況であったことが報告された。「シルバー食堂」「命を守る防災講座」について

取り上げられ詳しく説明がなされた。

「シルバー食堂」は「市食生活改善推進協議会」の全面的な援助を受け、町内の高齢者を対象にする食事会。作りやすさやおいしさ、高齢者にとって食べやすさが吟味されたメニューだった。その様子は、広報「大湫」（2019年6月号）に掲載されている。

2018（平成30年）度、大湫町に防災士が初めて誕生した。さらに、2019年度には3名の防災士が新たに誕生したこともあり、「命を守る『防災講座』」が企画された。防災士の誕生がこの講座開講の一契機となっただけでなく、今度の度重なる災害は今までの経験をはるかに越えたものとなっており、たびたび耳にする「過去に経験のない降雨量」とか、「命を守るため避難をしてください」との避難警告に、どのように自らの命を

守ったらいいかの知恵を得る場としようとして企画された。

最近若い母親が大湫に増え、学齢期を迎えた母親がスクールバス乗車への疑問などを解決できる場として「若い母親同士が集まれる企画が欲しい」との発言もあった。

「丸森」の事業報告では、2019年度の開館率が99.7%。非常に高く、ほぼ無休。年末年始の休館以外は、台風19号（10月）の接近と職員研修（2月）に際し休館としただけで高い開館率を維持した。入館者数は一日平均、31名。町外からの訪れた大人は、およそ6,500名（1月末現在）との報告があった。

季節に合わせた施設内の展示も好評を得、リピータも増加した。武士や侍女の着付けを丸森の職員にしてもらい宿内を歩いていただく企画は、今風のインスタグラムなどのSNSにて公開したいと

いう人たちにも好意的に受け止められた。

施設長は「地元ケーブルテレビ局や新聞社（中日・朝日・岐阜）をはじめNHKBSやCBCからも取材があり、中山道大湫宿にある『丸森』が観光案内所、休憩所としての役割を担っていることが定着しつつある」と声を強めた。

「山びこどん」では、布草履作りに参加者が増え活発になってきた。太鼓の練習を中心に活動している「集まるう会」は、地域の諸行事に積極的に参加し今後も活動が期待できる。一方、8年を経過した「おしゃべりサロン『こぶし』」は、参加者数の減少傾向があり、手伝いをいただけるスタッフも少なくなっている。「ひよも」も高齢化が進み参加者が減少している。各団体から明暗を分けた活動報告が発表された。

会議の閉会にあたり「大湫町コ

ミュニテイ推進協議会会長」から、公民館長と主事、施設長の3名が年度末でそれぞれ退任し、公民館と「丸森」の新たな人事体制になることが報告された。引き続き退任する予定の各氏から、協力いただいたことへのお礼の言葉が述べられ、今年度の運営委員会を閉会した。



定着を期待したい 「クテの市」

「クテの市」は地名「大湫（オクテ）」をもじって命名されたごくごく小さな「朝市」。3年の実績しかない。続くかどうか危ぶまれる地域限定の野菜即売「市」だ。

大湫町では家庭菜園をおこなう家庭も多く、新鮮な野菜が物々交換のようにしてやりとりされる。

年々高齢化と老夫婦の所帯が増え、家庭菜園で丹精込めて作った野菜も自家消費では余ってしまう。食べられるだけ栽培すればよいのだが、収穫までにはいろいろ予期せぬことも起き、必要な数の種をまき必要量だけを収穫することはできない。どうしても目減りを考え、多めに作る。そのため、余ってしまうことがある。

高齢により菜園を止めたり、菜園がなかったり、あるいは勤務により耕作をする時間がない方もある。こうした方に採れすぎた野菜をもらっていただくことは、ごく普通におこなわれている田舎の生活。いただいた方はありがたいのだが、「いつももらってばかりでは」と気になり、お返しを考える気遣いも生まれかねない。

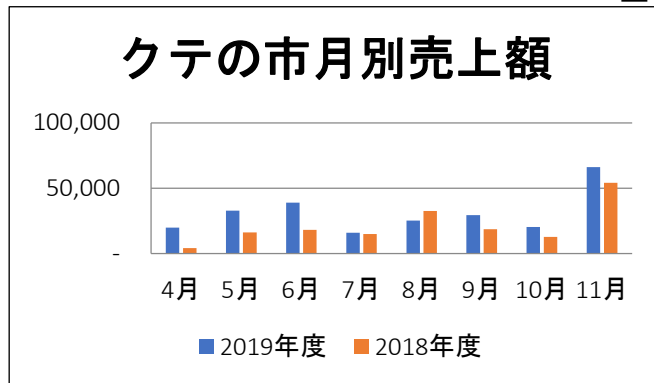
こんな事情を考えたとき、「余剰農産物の販売を公民館前の敷地内

で販売をしてみよう」と言うことで始まったのが、この「クテの市」だった。

「お店」

（店という程でもないが販売所）を開く以上は、行っても閉店だったり、何商品がなかったりする状態は避けねばならない。だが商品が提供されるかも不明。こんな不安を抱えたまま、「ままよ！」と始まった「クテの市」。

木曜と日曜の週2日。4月から11月の限定された開店だが、購入者からおいしいと評価をいただ



たり、もうないかと新たな注文をもらえたりと、少しずつ変化もしながら定着していった。提供者は「100円ではこれぐらいの量にはしない」と悩み、割安感が出るように努力するが、購入する一人暮らしの方には量が多すぎ、敬遠されることにもなる。ならば「単品でなくミックスにしては」との提案があり、この面の工夫も生じた。トマト栽培を生業とする町民からの提供も集客に大きな役割を果たした。「丸森」の努力で増えた観光客や「さわやかウオーク」（JR企画）「オオクテ・ツクルテ」の催しで町外からの来訪者が購入することも増加していった。

売上の10%は「大湫町コミュニティ推進協議会」に入金された。ささやかな還元だが、「町づくり」がおこなう事業と言える。が、「町館事業の延長・発展系として取り

組んだ。この「クテの市」に人が集まり、会話が生まれ、情報が伝われば、それも公民館活動の一環か、との考えだ。

これがきっかけとなり、「事業者コミュニティ推進協議会」として新たな発展ができるのなら、町づくりに還元できるのではとの淡い期待が持てた気がしたささやかな一歩となった。なによりも、廃棄せず好循環が町民の間に起きるならそれもこの「クテの市」の役割だ。今後の定着と発展に期待したい。



文責 長谷川 明

公民館活動に従事して

大湫公民館が市から管理を任されたのは2017（平成29）年1月。2003年に法律（地方自治法）が改正されたことにより指定管理者制度の発足により、公の施設の運営が民間に任されていきます。瑞浪市が設置した各公民館も順次民間に任されていきました。

「大湫町コミュニティ推進協議会」に公民館の管理運営が移行し、今年（2020年）3月で、ちょうど3年と3か月。指定管理を受けた市内の公民館（中央を除く）では、大湫がしんがりでした。指定管理者制度は「住民の…：利用に供するため…：公の施設について民間事業者等有するノ

ウハウを活用」する目的で制定された。税金で作られた公民館を住民が利用しやすくし、その利用頻度を上げようとする意図がうかがえます。

公民館は「住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的」（社会教育法第20条）としています。指定管理となった公民館の事業がこの目的にそった活動となつていくかを自己点検しながらも、住民から望まれ受け入れられる活動であることも求められます。

事業計画の立案とともに指定管理料の運用は手探り。また町内の有能な人材を知らず、当初は町外の方に講師を依頼することも少なからずありました。大湫には

知人も血縁もなく、県外からここに来て数年しか経っておらず、当然のことでした。無謀な挑戦でした。

いわば基盤や基礎がないにもかかわらず、不十分ながらもどうか公民館事業が遂行できたのは皆さまの協力です。事業への新たな提案やアイデアをいただき、参加するという行動での協力。周りの方々をもお誘いいたただくという協力、等々。感謝に堪えません。ありがとうございます。

なによりも、コミュニティの役員、公民館職員の方々への御礼を申し上げ、退任のご挨拶いたします。

長谷川 明



安心して暮らせる国づくりを

今を去る七十二年前、米英と戦争を始めた。昭和十六年十二月八日、真珠湾を攻撃し、アメリカのひるむそのうちに、アジアの各地や太平洋上の島を占領した。国民が連戦連勝に酔っているうちに、アメリカの反攻によって一年足らずで連戦連敗の負け戦となってしまった。米軍の膨大な物量には、日本軍の大和魂では通ぜず、撤退、玉砕してしまった。戦う兵器もなく、食う物もない悲惨な状況で、九死に一生を得て帰った人達の話には、何度聞いても胸を打たれた。

戦後各地に作られた戦争記念館に展示された遺品に、声を失う人が多い。最後の激戦地となった沖縄の攻防は、この世の出来事と思われぬ悲惨なものだった。

本土決戦を迎え、B29によって

東京を始め主要都市は焼け野原となり、広島・長崎に原爆が投下されるに至って戦争は終わった。

そうして平和な時代を迎え、新しい憲法を作って「戦争は二度としない国」になる事を固く誓った。

あの時の決意は何処に行ってしまったのか。平和産業に転じて、電器製品を始め自動車を作って世界に輸出して、経済大国になった。

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」という諺があるが、苦しかった事も悲しかった事も忘れ去って、経済的には豊かな国になることが出来た。

何処へ行っても「戦争反対」の声が聞かれるが、大方の国会議員は戦争体験がなく、有権者の信頼を背負って議員になったことをお忘れになったのではないかと、疑いを抱かざるを得ない。

令和二年の国の予算は、過去最高の百兆円を超えている。今、一番や

らなければならぬのは財政の健全化である。そのためには国会議員の削減など、自ら身を切る事を望む有権者は多いが、全くその気配は感じられない。

借金（国債）は、次世代の子供に押し付けるつもりだろうか。高齢化と少子化に頭を抱えている人は多いが、国会の場でもっと大きな声になる事を願っている。高齢化対策に手一杯で、少子化対策は二の次にされている。

幼い子供を見る度に、大人達が食い散らした後始末にこれから苦労すると思うと、可哀想に思わざるを得ない。

「広報『大湫』」に四〇五号に亘って貴重な紙面に投稿させて頂いた事に感謝して絶筆とさせて頂きます。有難うございました。

文責 天野長三郎

2月の丸森だより

2月24日 現在

訪問者	町外		町内		合計	その内 (外国関係)
	大人	幼小中高	大人	幼小中高		
	280	7	95	7	389	1
	H31,4月～					9,548人
	オープンから					30,530人

訪問者

- * 冬場ですが、中山道の旅人も週に10～15人程度ありました。
- * 17宿スタンプラリーが2月末日終了とあって、毎日訪れる人がありました。
- * 2/23、日本橋から中山道踏破の父子(小学生)が、中津川から24km以上の道のりを歩かれ、2/24も大湫宿から御嶽宿まで18km以上歩かれます。休みを利用しての挑戦、京都のゴールまで応援したい。

2月の活用事業

ひな祭りフェア (開催日 2/8～4/3)



昭和30年代の御殿風雛



[江戸末期のもの]

- ・男雛は足を出し(あぐら)
 - ・女雛は片膝座りを隠すように
- [明治初期・大正初期]
- ・現代の雛人形のルーツに
 - ・男雛は束帯風
 - ・女雛は五衣唐衣裳(十二単)

竹細工の町並み展示 (開催日 2/8～6月上旬)



* 今回は、二つの事業を同時開催としましたのでぜひおいでください。

3月の計画

活用事業	* 3月20日(祝)に1日限定で抹茶のサービス (30名ほど)
観光案内	* 旅人企画ツアー……3月22日(日)に27名、3月29日(日)に50名 公民館で昼食をとる ボランティアガイドの会が案内の予定

せらしお 2020年
3月の集まるう会

大湫町コミュニティ
推進協議会
集まるう会

☆太鼓は..... 3月28日(土)今年度の計画づくりを
やります。みなさん集まって下さい。
場所... 公民館講堂 9:30~

三 ◦今年の9月に 志多ら玉瑞浪公演が行われます。
昨年同様、集まるう会の方へも声がかかっています。
又、一緒にできるといいですネ。

8 ◦志多ら「ワークショップ」と「ミニコンサート」は、8月30日
に決まりました。瑞浪公演にむけての練習も
出来るねと大脇先生からのメッセージがありました。

かしわや、営業は..... 3月14日(土) 10:00~予定。
28日(土)
この日は、「おでん」のサービスをします。みなさまどうぞ
ご来店下さい。

今大湫では、「赤ちゃん誕生」のうれしいニュースが聞
かれます。おめでとうございます。お母さん同士、子育ての
話しをしたり、先輩ママさんからのアドバイス等、気軽に
おしゃべり出来たらいいなと思っています。4月18日の太鼓
練習の時に、みなさん集まりませんか。春めつけを上げ
がらでもいいですネ。

大湫コミ・公民館からのお知らせ

年賀状展の開催終了

昨年につき、今年も「年賀状展」を実施することが出来ました。

ご協力ありがとうございました。



オススメ！大湫分室の本

『今夜はおでん』 枝元なおみ：著
鶏ガラやかつお昆布などのだしとりから、下ごしらえまで定番のレシピを紹介。まだまだ寒さの残る季節に向けて、春野菜を使った春待ちおでんもオススメ。心も体も暖まって下さい。

ご招待券あります（各2名様）

◎『記憶と空間の造形 イタリア現代陶芸の巨匠 ニーノ・カルーソ』展

期間：4月12日（日）まで

会場：岐阜県現代陶芸美術館

◎企画展『役者とめぐる木曾街道』

期間：3月29日（日）

会場：中山道広重美術館

*大湫宿お休み処

R2年3月までの営業はお休みさせていただきます。

*おしゃべりサロン「こぶし」（100円コーヒー）

3月営業日 第2・第4土曜日

営業時間 AM9：00～AM11：00

営業場所 ふれあいセンター



リ・アップ“ひよも”だより

3月のお茶のみ会のおさそい

日時：3月4日（水曜日）

9：30～11：00頃まで

場所：ふれあいセンター

参加費： 50円

お待ちしています

大湫町コミュニティ推進協議会

青色回転灯防犯パトロール

3月のパトロール予定者

「3/上旬」

大竹顕久, 棚橋雅美

「3/下旬」

木村伸哉, 松浦大哲



デマンド交通

利用者(大湫～日吉東部)

1月：31便 延べ43名

区長日記

中国武漢市に端を發した新型コロナウイルスは、瞬く間に世界へ広がり、隣国の日本も避けて通れない大きな課題となつて参りました。特に高齢者や疾患のある人々には大敵で、重症化したり場合によつては命を落とすことに直結する危険があります。

高齢化が進んだ大湫町においても、十分に警戒して当たるべき喫緊の課題となりました。町外へ働きに出る人々も多い昨今、目に見えないウイルスの伝染を絶つのは至難の技ですが、素朴な手洗い・うがい・マスク着用を心掛けることが私たちのできる最大の防御と心得、努力して行こうではありませんか。

新年度へ向けては、中山間地域総合整備事業（水路改修）として六千八百万円、大湫宿保存活用事業（古民家改修）として八千七百四十万円、森林環境税市町村提案事業（琵琶峠整備）として約一千万円が予定されており、町内の環境整備は着実に前進すると思われませんが、今及び将来の住

民の皆さんが、夢を持って住み続けられる町にするためには、思いやりや支え合いなど、良好な人間関係を紡ぎあげることが最も大切ではないかと思ひます。先ずは軽やかな挨拶から・・・
区長会長 足立

2月4日 夢づくり（ステップアップ）事業打合せ

5日 大湫小記念碑建立委員会・農協問題懇談会

6日 大湫町OB会・転入対策委員会

7日 定例区長・幹事会

8日 大湫公民館・丸森運営委員会

13日 夢づくり（ステップアップ）事業打合せ

14日 農協大湫事務所問題懇談会

16日 青少年育成市民会議

17日 市総務課打合せ会議

22日 市活性化プロジェクト発表会

26日 大湫小記念碑建立委員会

27日 丸森・ボランティアアガイド研修会

29日 瑞浪市まちづくり講演会

令和二年三月行事予定

日	曜	予	定
日			
一	日	神田稻荷例大祭	
二	月	財産区全員会議	
四	水	リ・アップ「ひよも」	
六	金	定例区長・幹事会 瑞浪北中学校卒業式	
八	日	春季奉仕作業	
一四	土	おしゃべりサロン／かしわや営業	
一五	日	雄白稻荷神社例大祭	
一七	火	大湫町民ゴルフ大会	
二〇	金	*春分の日	
二五	水	釜戸小学校卒業式 大湫小記念碑建立委員会	
二六	木	竜吟幼稚園卒園式／北中・釜小修了式 長寿会総会	
二八	土	おしゃべりサロン／かしわや営業	
三〇	月	広報委員会	

今月の資源ごみ: 3/23(月) 不燃ごみ: 3/5(木)

編集後記

インフルエンザや新型コロナウイルスが猛威を振るい、毎日報道される情報に釘づけに・・・!

自然界では季節を錯覚させる気温の高低にビックリ・・・!

でも、季節は動いています。

『一月は行く。二月は逃げる。三月は去る。』昔から年明けの三カ月は時間があつという間に過ぎ去る様子が表されてきました。

節目を向えるこの時期、寂しさもいっぱいですが、新しい出会いに思いを馳せながら、毎日を楽しく頑張ってきたいものです。

皆さんも素敵な三月をお過ごしください。お身体を大切に・・・y



編集発行: 大湫町コミュニティ推進協議会 広報委員会
 令和2年3月1日 瑞浪市大湫町 422-1 TEL.0572(63)2360
<http://okute-shuku.jp/>